

# 平成21年1月期 中間決算発表 ご説明資料

(当社第200期中間期 平成20年2月1日～平成20年7月31日)

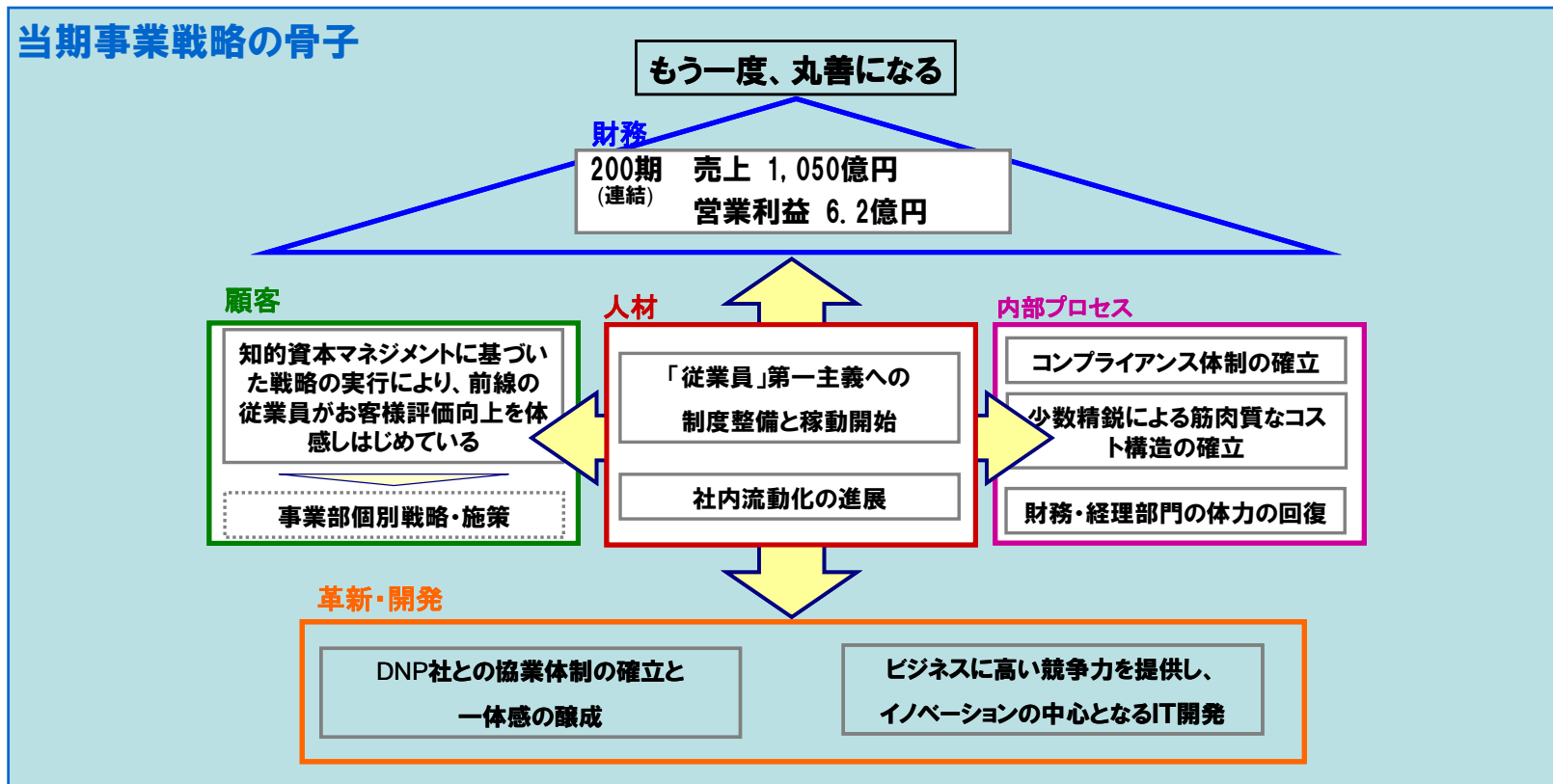
平成20年9月19日

丸善株式会社

説明者：代表取締役社長 小城 武彦

# 1. 当期の位置付けと戦略の骨子

- 当期は、本年3月21日に発表した「中期事業計画200」の初年度として、知的資本強化の実践を本格的に推進。
- 企業の成長を促す“根”とも言える「知的資本」を見える化し、それを強化することで、将来に亘って持続的成長が可能となる事業基盤構築への取組みを開始した。
- 具体的には、下図の200期事業戦略骨子に示す各知的資本の構成要素を強化し、平成23年1月期終了時に丸善のビジョンである「もう一度、丸善になる」の達成に向かってスタートを切った。



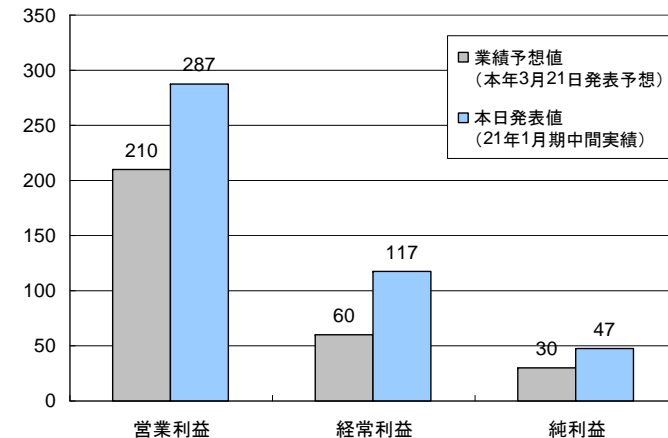
## 2. 当中間期業績サマリー(連結)

- 連結業績（営業利益・経常利益・当期純利益）を上方修正して9月16日に公表
- 知的資本マネジメントに基づいた、事業の基礎体力強化の効果が顕れて、業績は底固めに入った
  - 教育・学術事業の基盤となる書籍・雑誌販売が対前年比をクリアし売上回復基調に
  - アウトソーシング受託など新規ソリューション関連ビジネスも大きく伸長
  - 店舗事業では、業界逆風の中で対前をクリア、とくに和書の対前比は競合に水をあける
- 前年に大学設備工事関連の大型物件があったことが影響し、業績の前年比はダウン（設備工事関連以外の主力事業部門は前年比堅調に推移）

**知的資本経営に基づいたマネジメントの効果が各事業部門で結果となってあらわれ、足元業績は堅調に推移、中期事業計画200が順調にスタートを切った。**

（単位：百万円）

| 【平成21年1月中間：連結】       | 売上            | 営業利益       | 経常利益       | 純利益       |
|----------------------|---------------|------------|------------|-----------|
| 業績予想値<br>(3月21日発表)   | 52,500        | 210        | 60         | 30        |
| <b>実績<br/>(本日発表)</b> | <b>52,006</b> | <b>287</b> | <b>117</b> | <b>47</b> |
| 対業績予想比               | -0.9%         | 36.7%      | 95.0%      | 56.7%     |
| 同増減                  | -494          | 77         | 57         | 17        |



### 3. 当中間期の損益ハイライト(連結)

#### 全社計

(単位:百万円)

| 連結    | 当中間期   | 前年同期   | 差額     | 対前年比   |
|-------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高   | 52,006 | 54,256 | -2,250 | -4.1%  |
| 売上総利益 | 11,718 | 11,946 | -228   | -1.9%  |
| 販管費   | 11,430 | 11,378 | 52     | 0.5%   |
| 営業利益  | 287    | 568    | -281   | -49.5% |
| 経常利益  | 117    | 615    | -498   | -81.0% |
| 中間純利益 | 47     | 1,263  | -1,216 | -96.3% |

- 教育・学術事業の大学設備工事関連で前年に大型案件の売上が複数あったために、当期は対前年比では売上利益ともダウンとなった。ただし、教育・学術事業の他の事業は順調に推移(別掲)している。
- なお、前年はプリンストン債訴訟の和解金を特別利益として836百万円計上している。

- 店舗事業は和書を中心に既存店好調。
- 不採算店の閉店により利益も大きくUP

#### セグメント別

(単位:百万円)

| 連結      | 売上高    |        |        | 営業利益  |       |      |
|---------|--------|--------|--------|-------|-------|------|
|         | 当期     | 前期     | 増減     | 当期    | 前期    | 増減   |
| 教育・学術事業 | 29,418 | 31,427 | -2,009 | 763   | 1,052 | -289 |
| 店舗事業    | 18,526 | 18,435 | 91     | 177   | -68   | 245  |
| 出版事業    | 1,328  | 1,108  | 220    | 172   | 142   | 30   |
| 店舗内装事業等 | 2,733  | 3,284  | -551   | 196   | 360   | -164 |
| 本社費     |        |        | 0      | -1022 | -918  | -104 |
| 合計      | 52,006 | 54,256 | -2,250 | 287   | 568   | -281 |

- 出版事業は企画プロセスの見直しにより新刊売上増・返品減となり業績向上

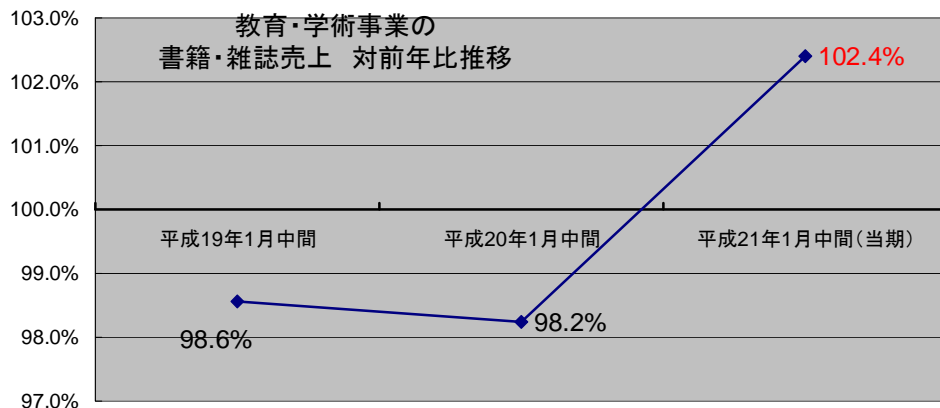
- 店舗内装事業は顧客の出店計画の見直し等が影響し厳しい状況

- 本社費では、IT関連コスト及び要員強化によりコスト増となった

# 4. 主要事業① 教育・学術事業

(単位:百万円)

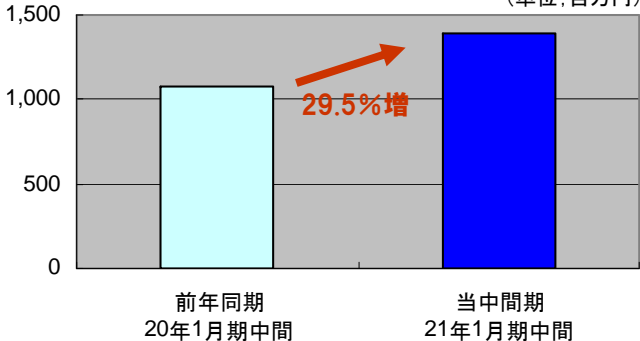
| 教育・学術事業<br>売上    | 書籍・<br>雑誌 | 図書館<br>OS | 設備・<br>工事 | その他   | 教育・学術計 |
|------------------|-----------|-----------|-----------|-------|--------|
| 前年同期<br>20年1月期中間 | 22,235    | 1,074     | 6,800     | 1,318 | 31,427 |
| 当中間期<br>21年1月期中間 | 22,769    | 1,391     | 3,849     | 1,409 | 29,418 |
| 対前年同期比           | 2.4%      | 29.5%     | -43.4%    | 6.9%  | -6.4%  |
| 同 増減             | 534       | 317       | -2,951    | 91    | -2,009 |



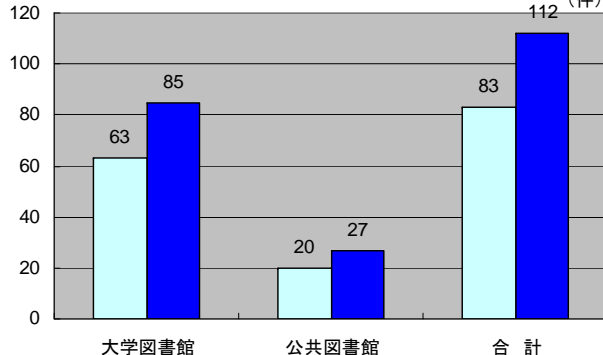
- 教育・学術事業全体の売上(連結)の対前年比較では、前年に大学設備工事関連の大型案件売上があったことから、対前年6.4%の減となったが、設備工事関連以外の部門では前年を上回る業績となる。
- 書籍、雑誌を中心とする物販では、知的資本のひとつである顧客との関係性強化の視点から、営業がより顧客との接点を充実・拡大できるよう、業務改善、物流改善及び営業体制の整備を行った結果、前年から2.4%増の売上となり、これまでの売上漸減傾向から大きく転換。
- 図書館業務受託事業も大学図書館では受託数NO.1となり、計画通り対前年約30%の伸長。
- 本年7月31日に発表のとおり、大学向け図書販売の拡大をテーマに、(株)図書館流通センターと提携に関する協議を開始。今後さらなる事業の拡大を図る。

図書館業務受託の売上伸長

(単位:百万円)



図書館業務受託 館数の伸長

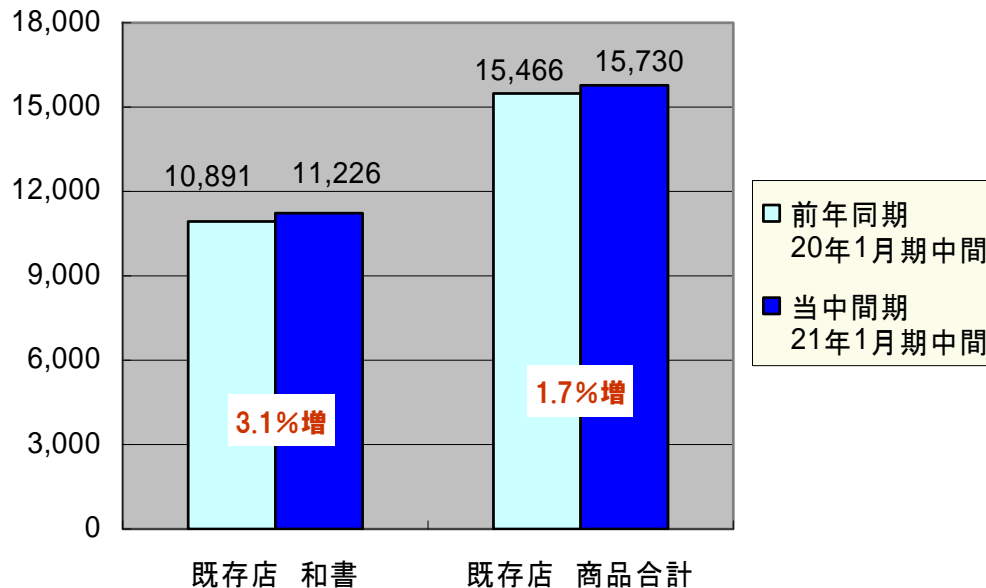


## 4. 主要事業② 店舗事業

(単位:百万円)

|          | 前年同期20年1月期中間 |       | 当中間期21年1月期中間 |       |
|----------|--------------|-------|--------------|-------|
|          | 売上高          | 対前増減比 | 売上高          | 対前増減比 |
| 既存店 和書   | 10,891       | -2.3% | 11,226       | 3.1%  |
| 既存店 商品合計 | 15,466       | -1.8% | 15,730       | 1.7%  |

※上記数値は単体での店舗事業の数値です。



➤ 店舗事業では、既存店売上が対前年1.7%と好調に推移。

➤ 中でも、和書売上は、前年比3.1%増の売上。書店業界の環境は非常に厳しく、当中間期も業界平均は毎月対前年を割り込む中、当社既存店の和書売上は、前年同期は対前割れであったところから反転、当中間期は毎月前年をクリアしており、業界の中でも際立って好調な業績となっている。

➤ これは、当事業において、知的資本経営手法の中の、とくに「人材の視点」に基づいたマネジメントを進め、店長及びスタッフの積極的な経営参画への仕組み作りや評価制度の見直しを行ったほか、徹底した顧客視点での売場作りのために、顧客ライフスタイルへの洞察に基づいたMD作りの推進など、知的資本強化の取組みが奏功した結果と判断。

## 5. 通期予想

- 当中間期業績は説明のとおり、**期初予想を上回り順調に推移。**
- 通期見込については、主要事業は引続き堅調さが見込まれるものの、**店舗内装事業の市場の厳しさを踏まえ、期初予想を変更せず据え置く。**
- 下半期においては引続き、**知的資本の強化に取り組み、この知的資本マネジメント手法を各営業現場にさらに浸透**させていくための活動を推進。

| 21年1月期 通期<br>業績予想 | 売上高 | 営業利益    | 経常利益 | 当期純利益 | (単位:百万円) |
|-------------------|-----|---------|------|-------|----------|
|                   |     | 105,000 | 620  | 170   | 90       |

### ご参考) 当中間期のトピックス

- 平成20年 2月12日 図書館向け総合情報リーフレット『丸善ライブラリーニュース』復刊
- 3月21日 『中期事業計画200「もう一度、丸善になる」』発表
- 4月 1日 am/pmとの業務提携による新業態キャンパスショップ第一号店開店(山梨学院店)
- 5月13日 自己株式(第一回F・G・H種優先株式)買入・消却を実施。その原資として、大日本印刷(株)を引き受け先とする第三者割当増資を実施(約32億円)
- 7月 6日 大学向けソリューション企画のTV番組『大学へ行こう』(丸善Presents) BS日テレで放送スタート
- 7月31日 大日本印刷(株)を引き受け先とする第三者割当増資を発表(約43億円、8月20日手続完了)、同社と業務・資本提携をさらに強化するとともに、同社の子会社である(株)図書館流通センターとの協業に向け、三者による基本合意を締結